北部病院だより第99号(2016.9)

Showa University Northern Yokohama Hospital

【巻頭言】緩和医療チームの取り組み

【防災の日~災害時に備えて~】

【医師の配属・異動・退職、診療統計】

【TOPICS】米国学会誌に掲載

【患者さんからのご意見・ご要望】

【INFORMATION】思い出写真とエピソード大募集



当院は『神奈川DMAT』チームを所有しています。 神奈川県内外で地震、台風、航空機・列車事故等の大規模な災害時に被災地へ迅速に駆けつけ、救急治療を行う ための専門的な訓練を受けた災害派遣医療チーム

(DMAT, Disaster Medical Assistance Team) です。 詳細は後日改めて、紹介します!

巻頭言

『緩和医療チームの取り組み』

当院には**『緩和医療チーム** (Palliative Medicine Team: PMT) 』があります。

入院患者さんの苦痛を和らげることを目的として活動しています。



緩和ケアとは

病気になり治療をするために通院や入院をしていますが、痛み、だるさや苦しさなどの身体にあらわれる症状や、つらい、悲しい、眠れないなど身体や心に現れてくる様々な苦痛症状を和らげ、患者さんやご家族の生活の質(Quality Of Life: QOL)をできる限り望ましいものに改善させる医療のことです。

身体や心につらい症状を抱えながらの長い治療は、病気に向き合う気持ちや病気を克服しようという覚悟も萎えさせてしまいかねません。早い時期から苦痛症状を緩和しながらがん治療行うことで予後が改善するという論文もあります。がんと診断された早い時期から緩和ケアを行うことにより患者さんやご家族の苦痛症状を和らげ、前向きに治療を行うことでよい結果につなげることが可能になります。

当院の取り組み

がんになった時、病気だけではなくいろいろな苦痛と闘わなければいけないとしたら…。 痛みや苦しさはあなたの生きるエネルギーを奪い、病気と闘う気力さえも奪います。

身体や心につらい症状を抱えているがん患者さんやご家族はそのことを主治医や担当のスタッフに伝えてください。私たちは、**あなたやあなたのご家族の痛みやつらさを相談・提案といった形で緩和するお手伝いをいたします。**

チームの活動は薬剤の処方や処置、指示を直接行うことはありませんが、緩和医療チームのメンバーは身体症状を担当する医師、精神症状を担当する医師、緩和ケア認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師、緩和薬物療法認定薬剤師、臨床心理士、栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多職種で構成されています。がんと診断された早期から、"いつでも、どこでも、切れ目のない緩和ケア"を合言葉に私たちは活動しています。

「緩和ケア」は、決して「終末期 医療」ではありません。

どうぞ、身体の不調やつらさを我慢 しないでお気軽にご相談ください。

あなたのお役にたてることがある かもしれません。





9月1日は防災の日です。当院では職員対象の『災害対策訓練』を行いました。 改めて防災に対する意識が高まりました。

今回は薬局と栄養科より災害時に備えてどのような準備が必要なのか教えてもらいました。

薬局より~災害とお薬手帳~

災害時に困ることとして、『いつも服用しているお薬が不足してしまった。』『かかりつけの病院や調剤薬局が被災してお薬がもらえない。』などが挙げられます。その際に**お薬手帳を持っている**とかかりつけ医や医師から処方されたお薬を確認することができます。

災害時は、救護所やいつもと異なる医療機関でお薬をもらうこともありますので、今までにかかった病気や副作用・アレルギー歴等の記載があると、患者さんの状況を把握することが容易となります。日頃から、お薬手帳に患者さん自身の体調変化などを記載し、医師や薬剤師へ見せることも大切です。

携帯電話等にいつものお薬の写真を保存しておくことも 1つの方法です。 お葉手帳

(薬局 峯村 純子)

栄養科より~非常食の準備~



特別な非常食や保存食を準備しておくことももちろん有効な対策ですが、**日常的に食べ慣れている食品やお菓子等を賞味期限ごとに買い替えしてストック**しておきましょう。

災害時には環境の変化により精神的に不安定になるため、食 欲不振になり、非常食が食べられず心身ともに満たされないこ とも。日持ちするものだけでなく、自分にとって食べやすいか どうかも考えて備蓄しましょう。

(栄養科 吉田 麻里子)

医師の配属・異動・退職

新規配属医師

2016年8月

【新規採用】

・浅田 大 (循環器センタ-) 京都府立医科大学大学院 平成 28 年院卒

【附属施設より】

· 黒田 春菜子 (放射線科) 工東豊洲病院 放射線診断科

異動 退職医師

2016年8月

【配置転換】

・黒田 春菜子 (救急センター⇒消化器センター)

【附属施設へ】

· 山名 啓太 (放射線科 ⇒ 大学病院 放射線科)

【退職】

・髙柳 大輔 (消化器センター) ・片岡 香絵 (放射線科)

診療統計

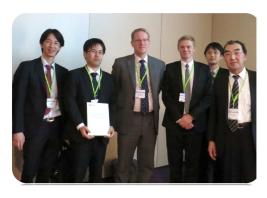
前年同月比 ()内は1日平均

診療実日数 2015年7月(入院:31日・外来:26日)、2016年7月(入院:31日・外来:25日)

	入院患者数	外来患者数	救急搬送数	手術件数
2015年7月	18,149 人(585.5 人)	28,574 人(1,099.0 人)	371件(12.0件)	652件(29.6件)
2016年7月	18,646 人(601.5 人)	28,217人(1,128.7人)	443件(14.3件)	712件(35.6件)

TOPICS

消化器センター 三澤助教 米国学会誌 掲載!



当院消化器センターの三澤将史助教が投稿した論文が、アメリカ消化器 病学会(AGA)の学会誌である「Gastroenterology」2016年6月号に掲載されました。

人工知能技術を応用し、超拡大内視鏡を用いて大腸内の病変を自動診断するシステムに関する論文で、名古屋大学大学院情報科学研究科の森健策研究室とサイバネットシステム株式会社との共同研究です。内視鏡の自動診断システムはこれまで夢の技術と考えられていましたが、急速な人工知能技術の進歩とともに実現可能なものになりつつあります。

工藤進英センター長率いる当院の消化器センターでは、このシステムが世界中の内視鏡医に使用され、正確な診断をもたらすことで患者さんに最適な治療法を提供できるようになることを目標に研究を続けています。

※「Gastroenterology」はインパクトファクター(文献引用影響率)が 18.187 と消化器分野で最も高く、非常に権威ある雑誌。 (写真:左から森 悠一助教、三澤 将史助教、一番右が工藤 進英センター長)

患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんより頂きましたご意見·ご要望に関しましては、院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見·ご要望を中心に改善策を掲載させていただきました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

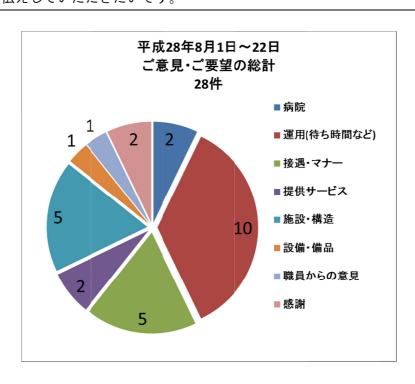
今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
<運用について>	
定期的に土曜日に MRI を受けていますが、	患者さんがいる時間にもかかわらず消灯しており、大変申し訳ご
毎回廊下の電気が消えている。患者がいる	ざいません。照明の消灯時間を変更いたしました。
時は消さないでもらいたい。	
他計 10 件	
	空調がうまく調整できず、申し訳ございません。
<設備・構造について>	診察室前の待合には今年度送風機を設置し、空気が循環するよ
小児科の待合が暑く、長時間待つのは大変	うにしております。また、診察室については温度が上がった際に
である。その上、診察室は更に暑かった。	は設備担当者に連絡し、点検をして調整しております。
善処お願いします。	しかし、超音波検査機器が入ると熱風のために温度が上がって
他計6件	しまうことも有ります。今後も室温に注意してまいりますが、事
	情についてご理解いただければ幸いです。

<感謝について>

小児科の保育士さんに大変お世話になりありがとうございました。子供が入院中、子供も母親である私も不安でないてしまう毎日でしたが、子供をよく見ていただき、泣いている私の背中までさすっていただき、本当に心が救われました。

壁に飾られた手作りのトトロやアンパンマン、子供がとても喜んでいました。素敵な保育士さんに「ありが とうございます」とお伝えしていただきたいです。



INFORMATION

思い出写真とエピソード大募集

皆さんの記憶の中にある昭和大学横浜市北部病院を教えて ください!

当院の病院だよりは今年10月に第100号になります。

皆さんからの写真やエピソードと共に当院の歩みを辿りたい と思います。

《募集内容》

- ・当院に関わる思い出写真 例)当院での写真(職業体験・実習等)、当院周辺の写真など
- ・ 当院にまつわるエピソード

《応募方法》

- ・ 下記フォーマットにご記入の上、管理課へご提出ください。
 - ※写真はプリント、メモリー共可
- E-mail: nhepisode@ofc.showa-u.ac.jp※お預かりしましたデータはご返却致しかねますので、予めご了承ください。

○当院にまつわるエピソード○
※こ記入いたたいたエピリートは首/建議へ ご提出ください。



編集後記

天候不順が続いた夏でしたがいかがお過ごしでしたか?

そろそろ秋がやってこようとしています。秋というと、鰯雲・蝉の声・味覚・紅葉がありますね!

私の地元では、生姜祭りと称する禮大祭が行われます。境内では生姜が売られ、この生姜を食べると風邪をひかないと言われています。神輿が石段を上がる姿は圧巻です。かなり盛大な秋祭りです。このお祭り近づくとそろそろ秋がくるなぁ~と感じます。

皆さんは何をもって秋を感じるでしょうか?

次回は北部病院だより記念号になります。皆さんからのエピソードや写真を素晴らしいお便りが出来るよう頑張りますので期待していてください。

広報委員会 委員 柿沼 浩

北部病院だより 第99号

平成28年9月1日発行

発行責任者 世良田 和幸(昭和大学横浜市北部病院長)編集責任者 緒方 浩顕(広報委員会 委員長)発行 地域中核病院 昭和大学横浜市北部病院〒224-8503 横浜市都筑区茅ケ崎中央 35-1電話 045-949-7000(代表)

URL: http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html 北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』 がご覧いただけます。